どもたちは何のために学校に通い、学ぶのでしょうか。 それは、自分をつくるためです。言い換えると、「子ど もたち一人ひとりが自分をつくる | という"目的"のために 学校があり、学校での学びは自分をつくるための"手段"なのです。 しかし、多くの学校ではそうなってはいません。手段が目的化し、 これをやっておけば将来役に立つとか、こういう力が必要だから身 につけろとか言われて、一律の内容を学ぶことが目的になってい ないでしょうか。自分を高めるために自分に必要なものを学び取る んだという当事者意識がないままに学んでいても、自分をつくること はできません。与えられたものをただ吸収し、自分がつくれないま ま多様な共生社会に出て、想定外なことが起こったときにどうなる か。会社が悪い、世の中が悪いと周囲のせいにして、社会の一 員として自分に何ができるだろうかという考えに至りません。他者に も不寛容になります。「自分をつくる」とは、多様な共生社会のなか で自分らしく生きていく術を身につけると同時に、自分とは違う他者 のことも尊重できるようになることなのです。

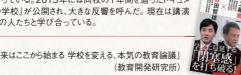
子どもたち一人ひとりが自分をつくることができる学校にするには、 まずは「学校づくりの主役は子どもだ」という前提に立つこと。子ど も自身が「自分が学ぶ学校は、自分がつくる」という当事者意識を もつのはもちろん、教職員も保護者も地域の人も、みんなが「学 校はみんなのもの。自分たちがつくるんだ」という気持ちで関わる ことが大事です。学校は地域・社会の一員ですし、地域・社会 の宝が学ぶ場所です。そして、社会が想定外・多様・共生であ るならば学校もそうあるべきですから、いろんな人が関わらないほ うが不自然です。大空小学校では、「できる人が無理なく楽しく」を モットーに、地域の人や保護者がそれぞれ時間のあるときに学校 に来て、ボランティアでサポーターをしていました。ギブ・アンド・ テイクの関係は持続しません。持続可能なみんなの学校をつくる ためには、みんなが自分の意思で主体的に学校に関わり、その姿 を見て子どもが社会を知り、学んで成長するというウィン・ウィンの 関係が不可欠ではないでしょうか。

高校の先生方は、肩の力を抜いて、もっと自由になってもいいと 思います。自由とは、自分らしく生きるということ。生徒に何かを教 えなきゃいけないという思い込みは捨てましょう。生徒と一緒に自分 も走ったらいいんです。それぞれの生徒が「自分をつくるためには 何が必要か」という問いをもち、必要なものを自ら学び取れるよう、 伴走する先生が増えることを期待しています。

Profile

きむら・やすこ●大阪府生まれ。2006年に開校した大阪市立大空小学校の 初代校長を9年間務める。同校では「すべての子どもの学習権を保障する」と いう理念の下、教職員や地域住民と共に、障害の有無にかかわらずすべての 子どもが一緒に学び合っている。2015年には同校の1年間を追ったドキュメ ンタリー映画『みんなの学校』が公開され、大きな反響を呼んだ。現在は講演 活動やセミナーで全国の人たちと学び合っている。

> 『学校の未来はここから始まる 学校を変える、本気の教育論議』 (教育開発研究所)



Opening Messag 今号の オープニング メッセージ

分をつくる



分をつくるための学校 *、社会で生きる力を育む

取材·文/笹原風花 撮影/景山幸一